特別講演

包装の今後の展望（パッケージデザインの傾向及び最新の包装技術紹介）

住本　充弘
住本技術士事務所

１．要約
循環型パッケージ及び循環型ポリマーの事例、デザイントレンド、人手不足対応、飲料容器の技術、今後の予測を説明する。

２．内容
包装は現在大きな喫緊の課題を抱えている。EU の包装及び包装廃棄物規則（PPWR）の世界への包装の影響である。2024 年に公布され 18 か月後に発効となる。食品包装及び清涼飲料容器への影響は大きく、certified recycled plastics を分野別に一定割合で配合した包装材料を使用することが義務化される。

日本国内には、そのような義務化の動きはないが、日本から欧州および欧州の動きに賛同するアジアなどの国々への包装製品の輸出の場合は、影響を受ける。

包装の役割の重要度も変わってきている。内容物の品質保護が、第一であるが、購入動機に影響するデザイン、各種機能性、使い勝手、コミュニケーションツール、エンターテイメント性など時代に合わせて必要性の重要度が変化してきている。

今は、今までの環境対応包装に更にプラスして、一度使用した包装材料を原料として何回も包装材料を新たに製造する循環型パッケージの概念が重要となってきている。具体的な内容は以下のごとくである。

1.　EU の包装及び包装廃棄物規則、PPWR の世界の包装への影響
(1) 欧州市場では、全ての包装は、①recyclable で、②プラスチック包装は、分野ごとに一定量以上の recycled plastics を含むことが義務化となる。
(2) 2030 年 1 月 1 日より実施となるので、2029 年 12 月 31 日までに必要な対応を終えなければならない。
(3) 包装先進国に日本は、ゆっくりとした対応であるが、世界の包装関連業界は、精力的に対応を始めている。

2.　日本から EU 市場への包装製品の輸出対応
(1) EU 市場、recycled plastics 利用の義務案を参照し、必要材料を手配する。
(2) EU が認めた第三者認証機関の承認を得る。
(3) 自社の飲料容器が輸出されていないかを確認する。あるいは問い合わせがあると回答する場合、 r PET ボトルメーカーに認証関係を確認する。

3.　デザイン・包装の動向
(1) ネット利用の購買が国内のみならず世界でも伸びている。
(2) グラフィックデザインは、各企業の販売ポリシーに基づいているが、ネット向けは、スマホなどの画面映りの効果的なグラフィックデザインに変更する傾向がある。
(3) 出来るだけ印刷の色数を減らす傾向もある。
(4) 更にパッケージの表面に印刷された QR コードを利用し、製品情報の提供以外に遊び、エンターテイメント性を提供する動きが海外では顕著。PPWR の実施に伴い、QR コードで消費者・利用者に包装材料の recycled 情報を伝えることになる。
(5) 日本同様、世界でも段ボール販売の飲料は、ラベル省略、シュリンクフィルム省略のグラフィックデザインのない飲料容器の利用。
(6) アルミ缶のリサイクル材料使用の飲料缶が、日本及びブラジルで開発。
(7) 売れるグラフィックデザイン
(8) 海外のデザイン事例

4.　新しい飲料容器
(1) パルプ利用容器

特別講演

(2) 紙とバリア性プラスチックの組み合わせ容器
(3) バリア PET ボトル
(4) 新しいキャップの事例
(5) マルチパックの再燃・普及
(6) その他
5. 世界的にもオペレーター不足への対応
6. 今後の包装予測